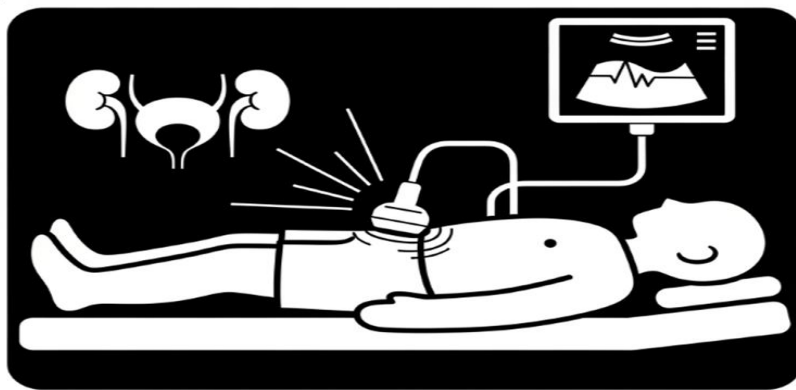
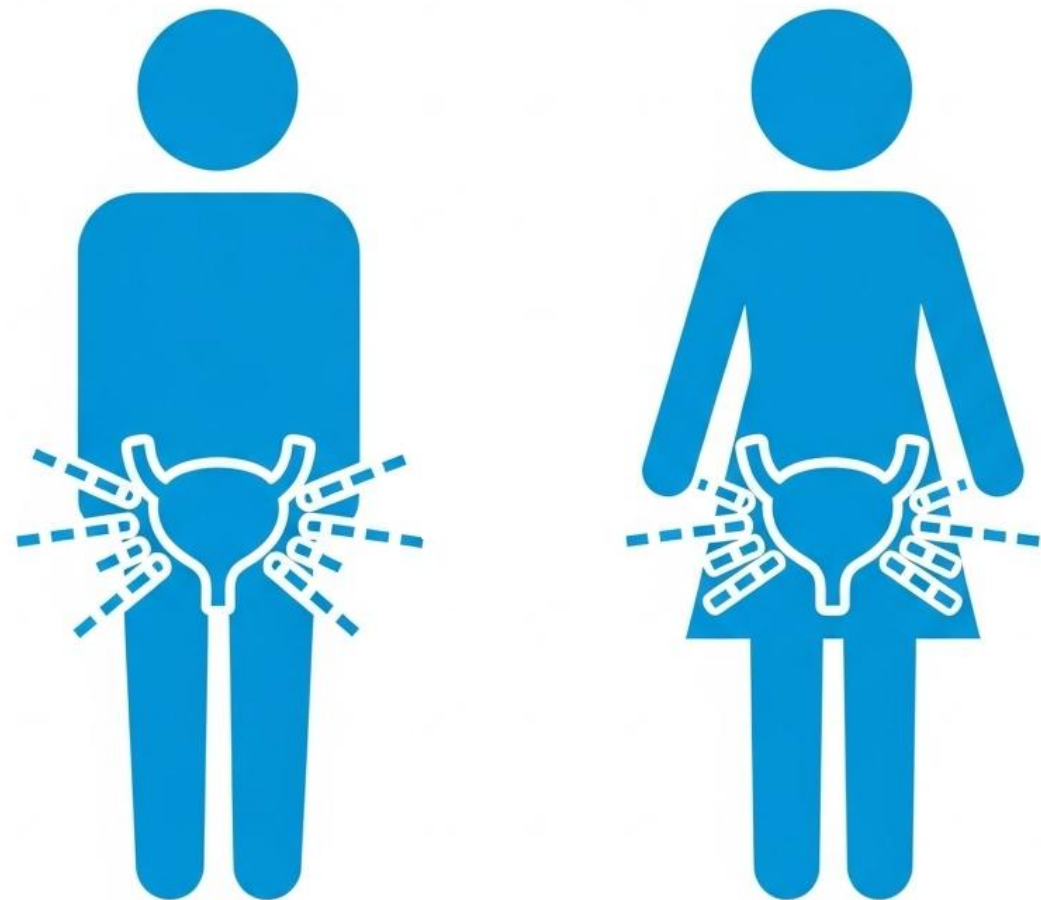




超音波検査の意義：抗コリン剤と $\beta 3$ 刺激剤による治療効果の評価

過活動膀胱とは

過活動膀胱は、急に我慢できないような尿意を感じたり（尿意切迫感）、トイレが間に合わずに漏らしてしまうこと（切迫性尿失禁）がある病気です。膀胱が過敏に活動することでこれらの症状が現れます。



過活動膀胱の治療薬について



現在、過活動膀胱の主な治療薬には、以下の2種類があります。

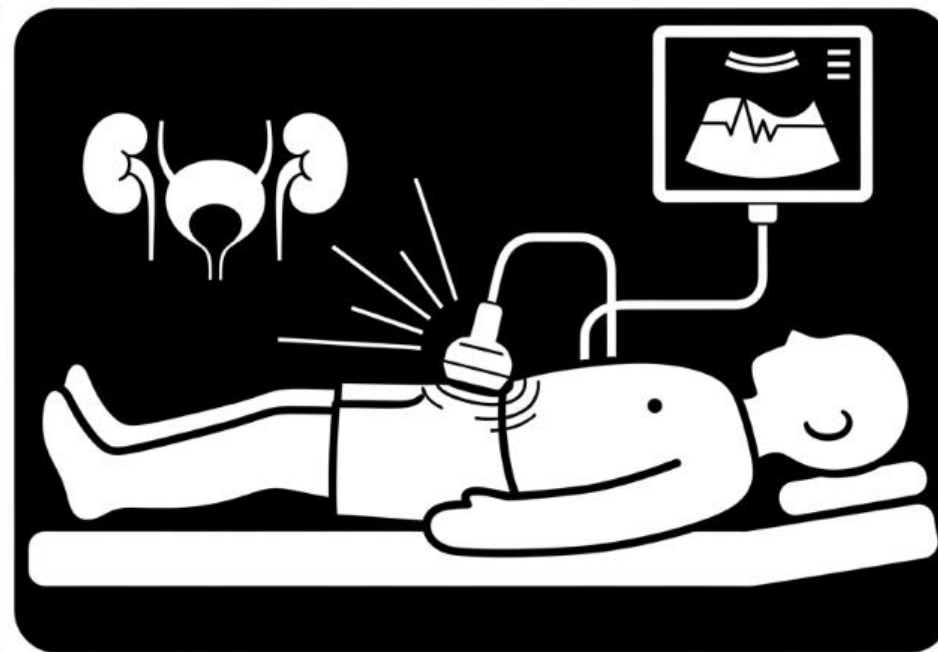
抗コリン剤: 膀胱の過敏な収縮を抑えることで、尿意切迫感や頻尿を和らげます。

β3刺激剤: 膀胱を広げる作用があるため、膀胱にためられる尿の量を増やし、急な尿意を抑える効果があります。

これらの薬剤は、膀胱の働きを調節することで、過活動膀胱の症状を改善します。

超音波検査の役割

超音波検査は、体の内部を画像としてリアルタイムで観察できる、痛みや被ばくのない安全な検査です。過活動膀胱の治療においては、主に以下の目的で超音波検査を行います。



1. 膀胱の容積と 残尿量の確認

薬を服用する前後で、膀胱にどれくらいの尿がためられるようになったか、また排尿後に膀胱の中にどれくらいの尿が残っているか（**残尿量**）を超音波で測定します。これにより、薬が膀胱の貯蓄機能を改善しているか、あるいは排尿に影響を与えていないかを確認できます。



UROLOGY

2. 膀胱の機能の評価

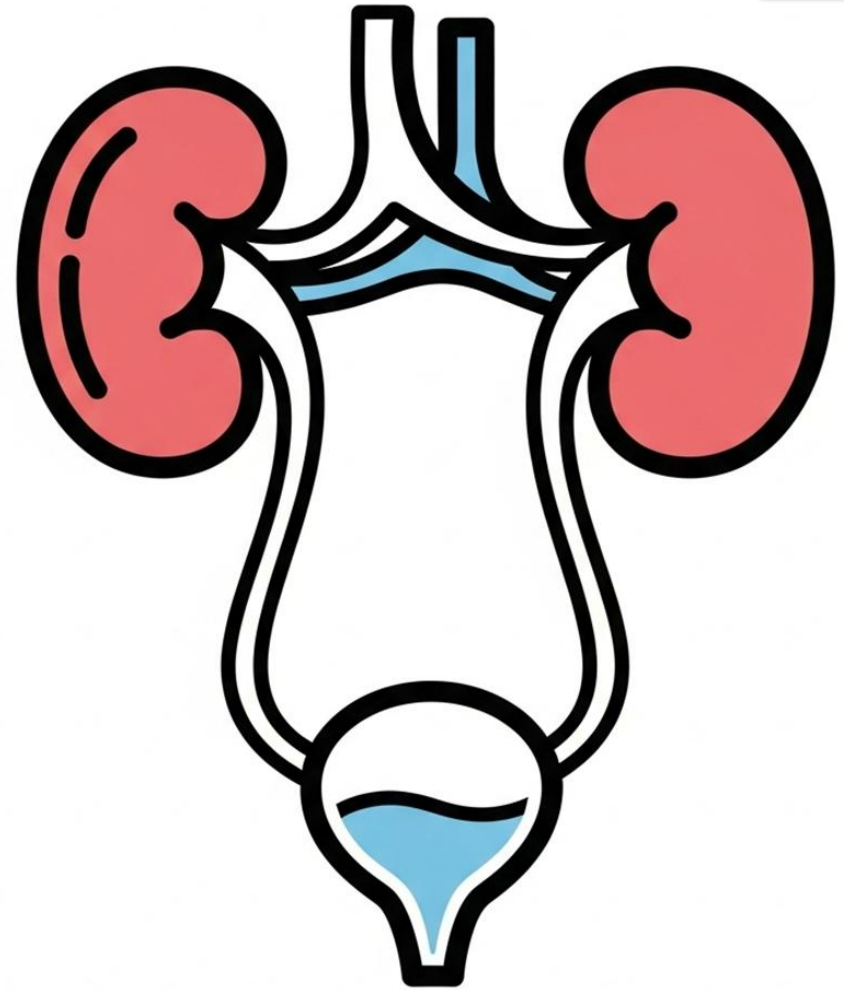
長期間にわたる過活動膀胱では、膀胱の壁が厚くなることがあります。治療によって膀胱の負担が軽減され、膀胱壁の厚さに変化があるかを観察することがあります。



UROLOGY

3. 腎臓や尿路 への影響の確認

- ▶ 過活動膀胱の症状が重度の場合や、排尿に問題がある場合、腎臓や尿管など他の尿路に影響が出ていないかを超音波で確認することがあります。特に、残尿が多くなることで腎臓に負担がかかる可能性がないかを評価します



なぜ超音波検査 が必要なのか？



超音波検査は、患者さんの自覚症状だけでなく、

客観的なデータ

として膀胱の状態や治療効果を評価するために非常に重要です。

治療効果の可視化: 薬の効果が目に見える形で確認できるため、治療の継続や薬の調整に役立ちます。

副作用の早期発見: 特に抗コリン剤では、まれに排尿が困難になる副作用が出ることがあります。超音波検査で残尿量を定期的に確認することで、このような副作用を早期に発見し、適切な対処が可能です。

治療方針の決定: 超音波検査の結果は、薬剤の種類や量を調整したり、他の治療法を検討したりする際の重要な判断材料となります。